

至：迷岳

崖

崖が現れビバーク

白倉山頂にあった「白倉山」の看板を「デタラメ看板」といい、ここは白倉山ではないと思いこむ。すでに道間違いは始まっていた。高度はどんどん下がり、「あれっ！おかしい」と思いながらもそのまま進んでしまう。眼の前に崖が出てやっと行動が止まった。

白倉山にあっさり着いた。「ここは白倉山ではないぞ、ときどきあるんだこういうデタラメ山名板が。さあ急がないと」。何も考えず直進し、古ヶ丸山方面へと入り込んでしまった。次の小ピークに「八景山(?)」の山名板があったが、「やっと白倉山だ、早く左に曲がる道を探さないと・・・」。左支尾根に点々と赤テープがあった。見事に、違うルートに誘われて行く。ドンドン下っていく。「おかしい、1000m前後の尾根歩きなのに・・・」。

太陽が沈みかけ、先が分からなくてイライラする。携帯した水も残り少なく心配だ。そんなとき、つんのめってふくらはぎにケガをし、血が脈打つように吹き出した。手ぬぐいで圧迫止血を試みた。やがて標高666mで断崖絶壁に遭遇し、進退きわまった。ビバークを決め、一夜を過ごす。翌日、同じ来た道を引き返し、事なきを得た。(HP参照)

道に迷った場所で携帯が通じ、知人に連絡している。また、ビバークの時、ラジオを聞いていたことも「冷静さ」を保つことに役だったと思われる。翌日は、冷静に来た道に戻ったため最小限のダメージで済んだ。道迷いはどこにでも潜んでいる。「白倉山」という看板を見ても「違う」という判断をしてしまう。これが、道迷いなのだ。不思議、不思議。だからこそ、携帯に地図アプリをインストールし、使用してほしい。